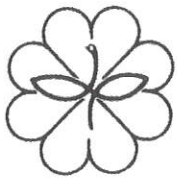


みんなの堺

第 57 号

発行 平成27年12月
発行者 堺市民生委員会
児童委員連合会
住所 堺市堺区南瓦町2番1号
電話 072-232-5420
発行者 堺市民生委員会
責任者 児童委員連合会
会長 加納 剛



支え合う心で広がる福祉の輪

特集:民生・児童委員活動と人権



堺市立総合医療センター

すべての患者さんの権利と人格を尊重し、安心・安全で心の通う医療を提供する。

平成27年7月1日オープン

(堺市西区家原寺町1-1-1/TEL.072-272-1199)

子育てにも目を向けよう

私たち民生・児童委員は、日常の活動では、高齢者への支援・相談事例が多くなっています。

しかし、子育て支援にも目を向けなければなりません。核家族化、地域での人との繋がり希薄化が進み、子育ての環境はますます厳しくなっています。新聞報道によりますと、大人の都合で子どもの命を奪うという悲しい事件も起こっています。

子育ての孤立化を防ぎ、子育ての心理的不安を少なくするためにも、周りの人や地域の人たちの支援が必要です。

「地域の子どもは地域で見守る」を合言葉に、今こそ、私たち民生・児童委員も行政機関や専門機関と連携しながら、地域の人たちと見守りの輪を広げることが大切です。

連合会副会長 森田 敏治



就任のごあいさつ



堺市社会福祉協議会 会長 **静 又三**

このたび、平成27年5月26日より堺市社会福祉協議会会長に就任いたしました静

でございます。

平素は、社会福祉協議会の運営に多大なご協力をいただき厚くお礼申し上げます。また、日頃からの民生委員児童委員の皆さまのご活動ご活躍に対し、深く感謝申し上げます。

今日の社会福祉を取り巻く状況は、超高齢・少子社会の進展、単身世帯の増加、経済情勢を起因とする生活困窮、社会的孤立といった様々な課題が顕在化しており、社会福祉協議会に求められる役割・期待は、以前にも増して大きくなっています。

このような状況のなか、民生委員児童委員の

皆さまには、担当区域において、住民の立場に立ち、生活上の様々な相談に応じていただいております。行政をはじめ適切な支援やサービスへの「つなぎ役」であるとともに、高齢者や障害者、子どもたちの見守りや安否確認など「ご近所さん」だから出来る重要な役割を果たしていただいております。

私も、微力ではございますが、これまで培ってきた経験を活かし、みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくりの推進に向け、精一杯努力してまいります。皆さま方におかれましては、時節柄ご自愛いただき、前任の森口会長と同様、引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



堺市における福祉制度の動向について

堺市健康福祉局長寿社会部高齢施策推進課 課長 **神原 富雄**

近年、少子高齢化や核家族化の進行や社会構造の変化により、ひとり暮らし高齢者の増加や、さらに経済的困窮などの課題が顕在化してきています。そのような中、今年度、介護保険制度の改正や生活困窮者自立支援法の施行に伴い、新しい支援体制を構築することが求められています。

まず、介護保険制度の改正に伴い、全国一律で行われていた要支援者の訪問介護と通所介護は、平成29年度より市町村ごとに実施する「介護予防・日常生活支援総合事業」へ移行し、既存の介護事業者に加えて民間企業やNPOなどから、多様なサービスが提供されるようになります。

また、生活困窮者自立支援法に基づく新しい制度は、生活保護に至っていない経済的困窮や社会的孤立などの課題を抱える方の支援を行うことにより、

第2のセーフティネットを十分に機能させていくとともに、支援を通じた地域づくりにも大きな役割を果たしていくことが期待されています。

さらに、支援を実施していくにあたっては、自らSOSを発信できない、生活に困窮されている方の早期把握とともに、複合的な課題を抱えた方への継続的な支援も必要とされています。

これらの取組みを進めるためには、民生委員児童委員の皆さまに日頃から行っていただいている見守りや、行政や関係機関等への橋渡しとしての役割がますます重要なものとなります。本市といたしましても、誰もが安心して暮らせるまちをめざし「地域全体で支え合う福祉の仕組みづくり」を進めてまいりますので、引き続き、ご支援、ご協力をよろしく願います。



就任のごあいさつ

堺市民生委員児童委員連合会 会長 加納 剛

このたび、平成27年7月15日より堺市民生委員児童委員連合会会長に就任いたしました加納でございます。中村会長の後任として大役を仰せつかり、責任の重大さに身の引き締まる思いでございます。

2年後に民生委員制度創設百周年という記念の年を迎える今日、私たち民生委員児童委員に寄せられる社会の関心と期待は極めて高くなってきているものと思われま。急速な高齢化の進展による認知症高齢者や孤立の問題、虐待や子どもの貧困に関する児童福祉問題、経済的困窮や災害時の支援活動など地域で抱える複合的な課題は極めて多く、支援を求める人びとが増加しています。この機会に、私たちは自分の職務(役目・役割)について今一度理解と認識を深め、活動の意義を高めていきたいと思。い。

さて、「気づき・発見」と「つなぎ役」は、民生委員児童委員活動の基本であることはご承知のとおりです。まさに活動の「一丁目一番地」と言

るでしょう。私たちは、必要に応じて地域住民の生活状態を適切に把握することが求められており、その活動のなかで異変や変化に気づくことが第一歩です。そしてその感性を日頃から磨くことが極めて大切であると思っています。そのための研修や訓練の必要性を痛感しており、連合会でも行政や社協に指導を仰ぎいっそう積極的に進めていきたいと考えています。

また、私たちは住民の最も身近な相談相手として、支援を必要とするすべての人びとが孤立することのないよう、日々の見守りや相談活動から早期に必要な支援につなぎます。その大切な「つなぎ役」であることの立場を理解することこそ、問題解決の第一歩であると認識しています。

結びにあたり、会長及び連合会としては今後行政・社協との連携をいっそう強化し、民生委員児童委員がその力を発揮し、活動しやすい環境づくりのため、鋭意努力することを誓い、ごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

飛躍させよう

民生委員児童委員大会

総務委員会報告

民生委員児童委員大会は、過去10年間、平成18年の「個人情報と民生・児童委員活動」に始まり、「人生出逢い、親の目、子の芽、地域の眼」「災害時に生きる普段の取り組み」「認知症を学び地域で支える」「要援護者の支援活動と民生・児童委員の役割」「障害者支援」「権利擁護支援」等々、そして本年の「民生・児童委員活動と生活困窮者支援」と講演の内容充実と講師の選択に苦慮しながら10年が経過しました。大会出席率は概ね80%になっています。

民生委員児童委員大会は年に一度の委員最大の集いの場であり、また、研修の場でもあります。

認知症、障害者、高齢者の孤立、児童虐待、DV、新しくはインターネット被害など複雑多様化する社会問題に立ち向かうためには、この大会を基盤としたスキルアップが望まれています。

皆さまの貴重な意見をお聞きしながら、100%の出席を目指し、この大会の一層の充実に向けた取り組みを心掛けたいと思います。

(委員長 寺田 明男)





専門委員会だより

百歳以上の 高齢者人口に思う

高齢者福祉委員会報告

今年9月28日現在の堺市の住民基本台帳での百歳以上の高齢者数は327人で、うち女性は298人、約91.1%と女性が圧倒的に多い。統計資料ではこれらの方々の健康状態に触れたものはなかなか見当たらない。長寿はそれ自体めでたいことではあるが問題は健康寿命ではないだろうか。百歳まで長生きしても寝たきりでは手放して喜べない気もする。

先日、テレビで90歳の女性料理研究家が「かぼちゃの甘煮」の実演・講習をしていた。包丁さばきも確かで、ウイットに富んだ話術は十分な頭の回転を思わせ、見ていてまだまだ社会参加（社会貢献）できていると感心させられた。こういう人を生涯現役というのだと思った。

これからも、医療が発達し、生活状態（栄養・衛生面など）もさらに良くなりまだまだ寿命が延びると考えられなくもないが、今後は健康寿命を延ばすことに主眼をおいた施策、医療の発達、精神面を含めた生活態度の改善などが望まれるのではないだろうか。

（副委員長 榎矢 節）

障害者が主役の会社を訪問 障害者雇用促進をめざして

障害者福祉委員会報告

8月5日、障害者福祉委員会12名は、摂津市にある「ダイキンサンライズ摂津」を研修訪問しました。この会社は障害者114名（肢体不自由者32名、聴覚障害者32名、知的障害者24名、視覚障害者1名、精神障害者25名）、健常者



ダイキンサンライズ摂津にて

17名の合計131名の社員で運営されています。

車イス利用の社員の方に工場内を案内していただきました。建物内はエレベーター、トイレなどバリアフリー化されています。腕が上がりなくても業務できるように電話対応はイヤホン・マイク付携帯電話を使っています。聴覚障害者には組み立て検査装置にランプが設置されています。工具の工夫、作業の細分化、単純化、指示書を判りやすくするなど社員の意見を取り入れて作業しやすいように常に工夫されています。

精神障害のある方は、病気を隠さないで就労できることが嬉しいと言われています。定着率も他の事業所に比べるとかなり良いようです。

社員自らの力で利益をあげられるようにというのが経営トップの考えです。1993年の会社設立から関わっておられる会社顧問の應武さんは、「特別扱いをしていませんが、障害者もやってみたらできると確信しました。」とお話してくださいました。

参加者は「心強い会社です。ここで見たこと聞いたことを伝えていきたい。」との思いを持ちました。

（委員長 信田 禮子）

安全なまちづくり

生活福祉委員会報告

安全なまちの実現は、一朝一夕にしてなるものではないと思います。警察、行政、事業者、市民が一体となって、安全なまちづくりに関する取り組みを展開していく必要があります。私たち一人ひとりのためぬ努力の結果、「安全なまち」を確立することができると思います。

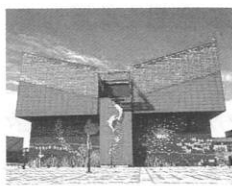
私は先月、孫の運動会を見てきました。あまり行く気ではなかったのですが、孫の前日の電話、「じいちゃん来てや」の一言で朝早くから高速でA市まで走りました。久しぶりに小学生の運動会でA市に行くと感動しました。A市は、公園、道路などがよく整備され町が美しく、小学校のトイレも美しいのに感心しました。小学校の正門の前には防犯カメラも設置されていました。

道路、公園の整備、小学校など公共機関のトイレの整備、防犯カメラの設置などは安心、安全のまちづくりのために必要だと思いました。

(委員長 野村 治司)

『一日里親事業』に参加して

児童福祉委員会報告



児童福祉委員と主任児童委員が合同で毎年「一日里親事業」を実施しています。児童養護施設に入所している

幼児を対象に、一日親代わりとなって野外活動を行います。

今年は9月24日、昨年と同じ天保山ハーバービレッジの海遊館へ行きました。雨模様でしたがバス2台で4ヶ所の施設を回り、3～5歳の幼児30名を迎えました。バスの中では元気な声が響き、和やかなうちに海遊館へ到着しました。子どもたちの小さな手が里親の手をしっかりとつないで、ジンベイザメやペンギンなどを見たり、おいしくお弁当をいただいたり、なかよし親子となりました。子どもたち

もすっかりなつき楽しいひとときを過ごしました。3時半頃各施設に送り届け別れを惜しみ無事帰路に着きました。

毎年のことながらこの行事に参加している子どもたちの抱える問題の深さを考え、どうか幸せな人生を送ってほしいと願うとともに私たち民生・児童委員として何ができるのか深く考える一日となりました。

(委員長 松岡 淳子)

西日本主任児童委員研修会に参加して

主任児童委員会報告

8月6・7日に福岡市「ホテルニューオータニ博多」で西日本主任児童委員研修会が開催され、堺市から3名の委員が出席しました。

1日目は、子ども子育て支援新制度や、児童相談所全国共通ダイヤル189番（いちちやく）の活用についての説明が行われました。その後、明治学院大学松原康雄教授より「子ども、子育て家庭をめぐる課題と主任児童委員活動」と題しての講義がありました。その中で出生数が8年連続減少をつけ少子化に至ったことや、子どもの貧困、虐待、少年非行など子ども、子育て家庭をめぐる状況についてくわしく述べられました。

2日目は、3会場に分散し「課題を抱える子どもたちにとって、身近なおとなとなるために」とのテーマでグループ討議をしました。そしてその後、「主任児童委員の活動基盤」「非行問題」「子どもたちの居場所」のテーマで講義が行われ、2日間にわたる研修が終了しました。

(主任児童委員 富田 良子)



特集

民生・児童委員活動と人権

女性も障害者も高齢者もひとりの人間として尊ばれる。人権を学習し、平素の民生・児童委員活動を人権の立場で考え、より一層尊重するきっかけとして特集に取り上げました。

人としての尊厳を尊重する

堺区 熊野校区 木村 悦三

すべての人が、住みなれた家庭・地域で、安全・安心な暮らしができることを願っています。そのためには、人としての尊厳を尊重することが何よりも大切です。しかし在宅の方がたを見守る側としては、さまざまな課題に直面します。

熊野校区においても、親族さえも家に入れなかったひとり暮らしで認知症の高齢者が死亡し、はじめて家の中に入って愕然としました。また長い間父親を在宅で看取ってきた男性が再就職できずに困っておられることなど、福祉、医療サービスを受けることについて改めて考えさせられます。

超高齢社会を迎えた今、在宅福祉、在宅医療の推進のあり方が検討されていますが、私たち民生・児童委員もその関わり方が問われているように感じます。

我々は、保健所、在宅介護支援センター、社協など関係機関と連携を取りながら、ふれあい、いきいきサロンや見守り隊など、近隣の顔の見える関係を深め、「つながり」を密にしたいと思います。

今、世界ではシリアの難民の問題が大きくクローズアップされています。我々は安全・安心な暮らしができて本当によかったと思います。

今後は一生懸命に地域に根ざした活動をし、基本的人権を守り、地域福祉活動の向上をはかっていきたいと思っています。

人権尊重の活動

中区 福田校区 森内 啓子

9月に福田校区主催の文化祭が小学校で開催されました。私たちは、作品展示部会を任されたので、地域の方々に周知していただく良い機会だと



考えて、子育てサークル「タンポポ」の活動紹介を展示しました。

子どもたちの作品や、委員たちによるアップリケ付けした手作りエプロン、紙芝居枠、また毎月のお誕生会の王冠を被った写真など、個人情報やプライバシーに留意して本人の了解を得たうえで展示を行いました。

先日「歩道で意識ははっきりしているが動けない人がいる」との連絡を元民生・児童委員より受けました。

その人は「お元気ですか訪問」対象者で、家族へは電話連絡がつかず、救急車は本人が固辞、お店の連絡で警察官が到着しました。意識がはっきりしていたので、相談のうえ本人の意思を尊重して、タクシーでの帰宅となりました。

その後も担当の委員とボランティアさんと度々訪問し「受け答えも普段通りです。」との報告を受けていましたが、一週間後自宅前で異常行動がみられ、近所の人通報で、救急車を要請し、現在も入院されています。

私たちは、今回のような日常の支援活動においても個人の人格を尊重し、人権を守るための守秘義務が求められています。

子ども、障害者、高齢者、ジェンダー問題を含め、課題の多い中、人権尊重の思想普及の高揚をはかる活動を、引き続き続けることが大切と痛感しています。

民生・児童委員活動と人権

特集

高齢者の人権について

五 共自 東区 八下西校区 大塚 修二

日本国憲法では「国民は、全ての基本的人権の享有を妨げられない。この憲法が国民に保障する基本的人権は、侵すことのできない永久の権利として、現在及び将来の国民に与えられる。」としています。ただし、この権利は、「国民の不断の努力によって保持しなければならない。また、この権利を濫用せず、常に公共の福祉のために利用する責務を負う。」としています。

幸せに生きるために、人権は私たち一人ひとりに与えられています。そして人権には次のようなものがあります。女性の人権、子どもの人権、障害者の人権、高齢者の人権などです。この中で、民生・児童委員として、特にかかわりが深い高齢者の人権について考えてみますと、最近マスコミなどでもよく取りあげられている、老人ホームなどでの心理的、身体的な虐待の多発は、虐待をする者にどのような理由があっても、決して許すことができない行為です。高齢者への虐待などの、人権侵害をなくす様々な取り組みが重要になっていると思います。各老人福祉施設に対する、行政のしっかりした指導や、各施設における職員の研修、教育の充実、更には施設設備の改善や、職員の待遇見直しまで含めて考える必要があると思います。

そんなことを念頭に置きながら、今後の介護相談員活動に取り組んでいきたいと考えています。

人権問題について

西区 浜寺昭和校区 寺田 明男

人間が人間らしく生きていくための権利の芽ばえが17世紀に始まり、国の中の問題とされていたものが国連主導の国際的な監視が行なわれるようになりました。

日本においても人権に関する多くの法律が施行され、各種の人権課題が取り上げられ、特筆するだけでも男女雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法による女性の保護も確立されるなか、現状では「ドメスティックバイオレンス」・「セクシャルハラメント」などの問題です。

子どもに関しても基本的人権を保障されながら、いじめ・体罰・虐待など痛ましい事件が後を絶ちません。

また、高齢者においても、平均寿命の大幅な伸びや、少子化を背景とする社会の急速な高齢化による介護虐待、認知症の増加、更に障害者・同和・外国人問題などに加えインターネットによる人権侵害など数えあげればきりがありません。

これらの問題を解決していくには、一人ひとりがお互いの違いを認め、他の人の人権を守ることが、ひいては自分の人権を守ることにつながっていくものと思います。

人権意識と見守り

南区 高倉台校区 吉田 正

高齢者の見守り活動については、要援護者も幸せ元気に生きる地域であって欲しいと願って訪問しています。

見守り活動や避難行動要支援者の訪問活動を通じて感じたことは、個人のプライバシーの問題に立ち入らない、相手からの話は尊重して聞く、聞き上手になる、人権侵害の言動があったらすぐに注意することです。

また、要援護者訪問で気をつけていることは、まず話を最大限に聞く、差別・偏見をもって対応しない、問題のあるときは見て見ぬふりをしない、決して上から目線の行動をしないことです。

人権に留意して今後の活動にぜひ活かしたいと思っています。

特集

民生・児童委員活動と人権



自分の生き方に責任を持つ

北区 東浅香山校区 水谷 和郎

私が民生・児童委員を委嘱され18年目になります。委員長になり丸1年を迎えますが、様々な相談支援をさせていただき、日々勉強の毎日です。今回のテーマである人権についても民生・児童委員活動と密接に関係しているもので、人権を意識しながらの支援が必要とされます。

そもそも人権とは、『人間が人間として生まれながらに持つ権利のこと』と辞書に記載されています。歴史的にみると、元々ヨーロッパで生まれた考え方で、すべての人は、『人である』ということだけで『かけがえのない』『尊い』『大切な』ものであり『人の尊厳』ということを受け入れなくてはならないものです。

私たちの抱えている事例の中でも、『家族全体が生活困窮で苦しい生活を強いられている』『病気になっても医療をうけることができない』『安定した雇用が得られず、失業と臨時雇用を繰り返す』『子どもの虐待』『DVの問題で夫から逃げたい』『認知症・経済面・ゴミ屋敷・孤立死などの高齢者問題』など様々です。その問題を解決するためには、地域住民との信頼関係を基盤とし、守秘義務を遵守しながら支援することはもちろんのこと、たった一人では解決できない課題も行政や専門機関とつながり、連携・協働することが大切です。また、人権は人がそれぞれの自己実現のために不可欠なものです。自分の生き方を責任を持って選ぶことができるよう、これからも支援していきたいと思います。

「個人情報保護法」と「守秘義務」とは

美原区 美原北校区 伯井 正

東日本豪雨に伴う水害で、茨城県常総市の行方不明者が15人と報道されていましたが、数日後全員無事を確認したと発表されていました。

「個人情報保護の観点」から未公表であったと言われていますが、このような状況下においても「個人情報保護」という法を遵守されていたことに驚きました。また防災の専門家からは、明らかに行き過ぎと疑問の声もあがっています。

私たち民生・児童委員として活動する中で、「守秘義務」があり、今後おこりうるであろうと言われている大地震などにおいて、家屋の倒壊や火災あるいは河川の氾濫など、大きな被害が予想されます。

東日本豪雨においても民生・児童委員に課せられた「守秘義務」の中で「ひとり暮らしの高齢者」「避難行動要支援者」など救助を必要とする人の氏名を地域の人たちにどのように知らせ、連携して支援活動をしていいのか考えさせられる報道がありました。

今後も、私たちが活動していく中で、いろいろな問題と出会うと思いますが、諸先輩方の意見をお聞きするとともに、地域の皆様方と連携を密にし、助言をいただきながら、少しでもお役に立てるよう努めて参りたいと思います。



近畿ブロック府県・指定都市 民生委員児童委員関係事業会議

7月9・10日、ホテル・アゴーラリージェンシー堺で開催され、近畿10民児連の120人に参加いただきました。当会議は堺市での開催が初めてで、役職員一同、参加者をお迎えしました。

1日目は、全国社会福祉協議会の平井庸元氏の講演の後、3つの分科会（①民生委員が活動しやすい環境整備に向けた取り組み②民生委員制度創設100周年に向けた取り組み③生活困窮者自立支援制度施行を受けた取り組み）に分かれ、当会正副会長が座長を務め、議論を深めました。2日目は、各分科会報告の後、仁徳天皇陵、堺市博物館、さかい利品の杜を視察され、堺の歴史と文化に触れていただきました。また、開会前には堺市更生保護女性会の協力のもとお茶席も提供でき、堺のおもてなしを感じていただけた2日間だったと思います。

「話し方、聴き方」

研修・広報委員会報告

委員長研修会を9月18日（金）に実施した。

講義1・講演

テーマ：「民生委員児童委員活動と権利擁護
～地域啓発と見守り～」

講師：堺市社会福祉協議会権利擁護サポート
センター所長 上田 晴男氏

講義2・グループワーク

テーマ：「民生委員に大切な人権意識とは
～ジェンダーをはじめとする人権問題～」

講師：HEAL ホリスティック教育研究所
所長 金 香百合氏

〈まとめ〉

- 民生・児童委員の仕事は0歳児から高齢者までの要援護者の自立支援
- 活動は「見守り」「声かけ」「つなぎ」など
- 相談活動で考えると

①相手の立場に立って、相手の意見を十分に聞く。

②問題を共有し、共に考える。

③相手の行動や考えを評価しない。

④結論を言わない。

⑤自己決定を支援する。

○民生・児童委員の心構えは

①人を人として尊重する。

②常に笑顔で「聞かせてくれてありがとう」の気持ちで接する。

③傲慢な態度や上から目線の態度で対応しない。

④「女のくせに」「年寄りのくせに」「障害者のくせに」など誤った考えを捨てて対応する。

⑤常に、自分の行動を点検し、謙虚に反省する。

⑥すべての人の人権が、尊重されるまちづくり地域づくりをめざす。

〈参加者の感想〉

講義1について

○身近な問題を取り上げていたので、わかりやすかった。

○地域の人々の生活を見守って、困っている人に気づき、問題解決の支援を速やかにしていくことが大事だと思った。

○DVDを鑑賞して、地域の人々を支える取り組みが、いかに大切であるかを感じた。

講義2について

○話す内容が簡潔で、明確であった。理解しやすかった。

○日常生活で、無意識の言動が人権侵害につながっているように思えた。反省させられた。

○グループワークで、隣の方との話し合いも初めはぎこちなかったが、地域の実情を話し合っているうちに段々盛り上がり、時間が足りなくなった。とても楽しかった。

○今日学んだ「話し方、聴き方」を参考にして、これからもがんばりたい。（委員長 藤原 利夫）

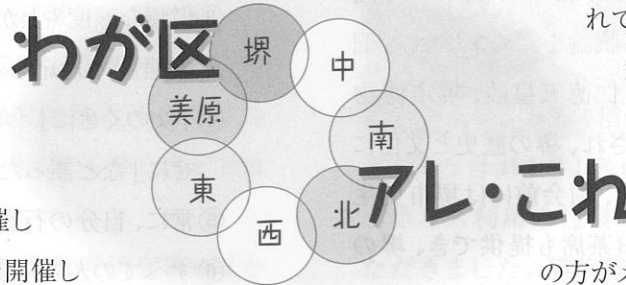


南パラバルーン会議

南区 新檜尾台校区 坂本 益輝



南区では以前基幹型介護支援センターが開催していた「地域福祉推進会議」を発展・充実させて、平成18年10月から南区民児協と南保健福祉総合センターが共催して、「南パラバルーン会議」を開催しています。



地域で暮らす方々の様々な困りごとに対し、関係者を含めともに考え、解決を目指すものです。「パラバルーン」とは集団でバルーンをタイミングよく動かして、遊びながら仲間とコミュニケーション

ン能力を育てることができるとされるスポーツです。会議の名前はそのイメージからきています。

会議では、生活福祉・高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉についてそれぞれの課題ごとに、講師による講演とグループワーキングを行います。

最近では「障害者福祉制度について」、「気になる子ども・発見とその対応」、「今どきの子育て事情と子どもたちの姿」、「認知症高齢者への支援」などのテーマで開催されています。

講演の後の行われるグループ討議では、各校区の民生・児童委員の活動事例が発表されて、熱心な討議が行われるために、時間が足りないうらいになります。最後にはグループごとにまとめの発表がありますが、多くの方がメモを取っています。

この会議では他の校区の委員さんや行政の方と顔見知りになること、他の校区の事情を知ることができること、行政の方が身近に感じられるようになることなど、日々の活動の大きな力になっているように思います。

利用者の心の支えとして

介護相談員連絡会報告

介護相談員は、新任研修や現任研修で学んだ知識を参考にしながら、活動を行っています。

各施設を訪問して利用者の声を聴き、また声をかけながら、如何に人並みの生活ができているのか自問自答しながら活動しています。

施設にも様々な特徴があります。各区域の相談員は、スタッフの方や利用者とのコミュニケーションを取りながら、少しでも住みよい居場所であってほしいとの思いで訪問を続けています。

施設においても、相談員が気づいたことや意見を求めておられます。利用者の中でも介護度の重い人は、こころを開いて話を傾聴することも難しく、



軽度の方は相談員の訪問を心待ちにしておられます。帰り際に手を握り「また来てね、待ってるから」といつまでも後ろ髪をひかれる場面もたびたびあります。私たち相談員は、利用者の心の支えになっていることを誇りに、これからも精進して行きたいと思えます。

(担当理事 寺田 民子)

民生委員児童委員になって

上野芝校区 濱田 祥子

私は、上野芝校区民生・児童委員になって一期目の新米です。諸先輩や行政機関に教わりながら緊張感をもって仕事をしています。

これまで9年間、校区の福祉委員会でボランティア（現在は福祉委員）として、子育て支援・いきいきサロン・茶話会・ふれあい喫茶に携わって参りました。民生・児童委員が、このような福祉活動を行っている校区もあると思いますが、当校区では成り立ちが初めから異なるために接点がありませんでした。しかし、数年前から福祉という同じ目標に向かって、民生・児童委員も協力して活動するようになり、現在に至っております。

私は、民生・児童委員になったお陰で認知症に関する講演会に出席したり、色々な勉強をする機会を与えていただき、キャラバンメイトや権利擁護支援の仕事にも携わるようになりました。これから私自身が、広い窓口になれるのかわかりませんが、時代に添った知識を増やして、皆様方のお役に立ち、重責ある仕事ができる親しみやすい民生・児童委員になろうと思っております。



オールとところを一つに!

登美丘西校区 星 忠宏

ボートと言えば、競艇を思い浮かべる方が多いかと思いますが、オールで漕ぐ競技用公認ボートコースが堺市にあることをご存知でしょうか?

浜寺公園と堺・泉北臨海工業地帯として造成された埋立地の間にある「浜寺水路」が、関西随一のコースです。昭和44年に、大阪府立漕艇センターが建設され、現在は約100艇収容の艇庫、トレーニング室、シャワー室などが整備されています。

登美丘西校区では、子ども会が中心となり、小学生がボートを体験できるボート教室を開催しています。安定感の良い、4人漕ぎのナックルフォア艇で練習してから開催した「第2回登西っこレガッタ」には16クルーが参加しました。

オールとところを合わせて漕ぎ切った子どもたちの顔は、その達成感で活き活きとしていました。



登西っこレガッタ大会

皆さんの自由投稿 お待ちしています

エッセイ、川柳、短歌、俳句、など日常の感慨や貴重な体験談を、また民生委員児童委員連合会にたいするご意見やご質問などお寄せください。

みんじれん堺 編集委員会

御霊よ安らかに

- H27. 6. 6没 東陶器校区 北山 昶 様
- H27. 9. 1没 槇塚台校区 神野 星徳 様
- H27. 9.11没 浅香山校区 中村 孝二 様

中村前会長を悼む

9月11日、中村前会長が他界されました。

昭和61年12月以来28年間、民生委員児童委員として活躍され、平成25年3月より堺市民児連の会長として、いつも笑顔で細部にも心を配られ、堺市民児連の要として人望を集められ、堺市民児連の発展にご尽力されました。

心より、ご冥福をお祈りいたします。

やり甲斐ある民児連事務局

堺市社会福祉協議会

福祉事業課長 西野 均

福祉事業課長の西野でございます。4月より堺市民生委員児童委員連合会の活動を、事務局という立場でお手伝いさせていただいております。

今日、生活困窮者支援制度の発足や介護保険制度の改定など大きな動きがある中で、民生委員児童委員への期待が非常に高まっております。一方で、雇用年齢の引き上げに伴う民生委員児童委員のなり手不足の問題、新任者への支援体制の構築・各種研修の充実など、民生委員児童委員制度について全国的にさまざまな課題が表面化してきている状況もあります。

これらの現状に対し、堺市では平成28年の一斉改選から一期に限り定年の延長が可能となることに加え、第4次三カ年計画に基づき、各種専門委員会における積極的な意見交換・研修の実施など、堺市民児連全体として安定・強化を図るべく、活発な活動を展開していただいております。また、地域包括支援センター及びすてっぷ堺などの新しい制度のか

け橋にもなっております。このような堺市民児連事務局を担うことを誇らしく思います。

平成29年には民生委員児童委員制度創設100周年を迎えます。これまでの活動の振り返り、民生委員児童委員の実情や地域の状況把握、今後の活動に向けての方針づくりなど、全国段階で議論されているところです。これらの動きも適宜ご報告したいと思っております。民生委員児童委員の皆さまには日々大変お忙しくされていることと存じますが、できる限り皆さまが動きやすくなるよう、微力ではありますがお手伝いしていければと思っております。今後とも、引き続きよろしくご依頼申し上げます。



近年、異常気象が続いています。今夏も各地で大きな被害が報道されるたびに、身につまされる思いがします。

民生・児童委員として「いざ、という時にも冷静に判断し行動がとれるよう常日頃より心掛けていますが、大きな災害の前では無力さを感じます。私たちが今、地域でできる小さなことでも真摯に取り組み、地域の皆さんに寄り添いながら日々の活動に励むということの大切さを改めて感じています。

委員の皆さんの日頃の活動の様子やご意見を自由に投稿していただき、活動内容などを共有したいと思います。

(藤田 吉保)